



局長	補佐	係長	係	担当者
				

様式第2号（第9条関係）

令和6年10月18日

尾花沢市議会議長 殿

会派名 令和・公明クラブ

代表者（無会派議員）名 大類好彦 

調査研究報告書

次のとおり政務活動事業を実施しましたので報告します。

事業名	調査研究（現地視察）
期 日	令和6年10月7日（月）～ 令和6年10月9日（水）
主な利用 交通機関	飛行機、タクシー借上げ
実施場所	① 10/7 愛知県春日井市（市役所庁舎） ② 10/8 愛知県豊明市（市役所庁舎） ③ 10/8 愛知県刈谷市（刈谷市総合文化センター）
調査研究 内 容	① 高蔵寺ニュータウンにおける取組みについて ② 地域包括ケア豊明モデルについて ③ 中高生の居場所づくり事業「なごみんはあと」について
参加者	大類好彦、星川薫、和田哲、菅野喜昭、安井一義 菅藤昌己、高橋隆雄、畑中和恵

※添付書類：~~参加者全員が~~所感等を任意様式にまとめ添付する

高蔵寺ニュータウン計画について

令和6年10月7日(月)

愛知県春日井市役所

約50年前に市内各所での土地区画整理事業の推進とあいまって名古屋に隣接する住宅都市として昭和40年代には毎年1万人程度の人口が続き、現在人口30万人を超える中核都市となっている。

人口・世帯数の推移で1995年ごろより人口減少は見られたが世帯数は増加傾向があり団地での高齢化と若者が少なくなっている事より新たな高蔵寺リ・ニュータウン計画となった。まず初めに主な課題の拾い出しがなされ計画策定のワークショップ・地域住民の意見交換会7箇所168名等が基礎となり計画策定されたことは今後当市の小学校統合等の進め方に取り入れ課題と方向性を十分に検討すべきである。

また翌年には計画の進捗会議を開催し進捗審議年2回開催し5年かけて計画策定されている。基本理念リ・ニュータウンの説明と資産(ストック)を活用しつつ更新(リノベーション)を重ねながら若い世代へ魅力と安らぎを提供し続ける。この事は今ある物に新たな価値を更新し提供する。現代の生活に合った暮らしと仕事の多様性に対応することが可能となる。以上の元となる先行プロジェクトとして生徒数の激減があり統合後の施設活用の整備で多世帯交流拠点として整備→高蔵寺まなびと交流センター「グルッポふじどう」が整備された。全体像を見ながら先行して事業整備を展開することで多くの人に具体的な施作を理解してもらえ、これを軸に施作策定及び方向性がより良い形になると考えます。地域住民サポーター(無償ボランティア)や交流センターイベント(年4回)の開催する事で検討団体や個人の興味を訴える事で展開できている。

これらをベースに快適ネットワークの構築、地区の魅力向上と公共サービスの充実を展開し、プロモーション開始された。

実に淡々とした、しかし熱気ある取り組みとなっている。本市との比較は規模の違いがあり単純には出来ないがぜひ都市計画等での策定、検証を踏まえロゴや公式ホームページやSNSを活用し魅力ある情報発信が出来るよう情報の整理

が必要である。



愛知県豊明市

『ケヤキいきいきプロジェクト地域包括ケアー豊明モデル』

行政視察報告

◇豊明市の概況

- ・人口68千人（40,794世帯）高齢化率26.2%の名古屋市のベッドタウンである。
- ・藤田医科大学病院日本最多病床を持つ特定機能病院を抱える。病床1435床。1日外来患者2,100人。医療従事者2,600人。年間手術件数11,000件。年間退院患者数25,000人とマンモス病院である。
- ・医療資源は、病院3、診療所39、歯科39、薬局25、訪問看護5、訪問リハ4。
- ・介護資源は、特老4（259床）老健2、訪問介護5、通所介護11小規模多機能4地域包括支援センター3（委託）、

◇豊明市が目指す、地域包括支援ケアーの方向性は、できるだけ本人の『普通に暮らせる幸せ』を支える。そのために役に立つものを見つける、探す、無ければ創り出す。

◇行政の支援体制（豊明モデルを担う組織）

健康福祉部の長寿課と市民生活部の共生社会課である。尾花沢市であれば、市民課に地域共生係をおいて、地域づくり、政策立案、生活支援コーディネーター業務を支援している。

◇地域包括ケアー豊明モデルの特徴

- ①産官学民の地域包括ケアーとして、UR都市機構（大きな団地を抱える）と藤田医科大学と豊明市が事業の連携がうまく取れている。UR都市機構では、学生・教員のコミュニティと学生向けの居室の整備。藤田医科大学では、まちかど保健室（無料で健康や薬剤、治療の相談）を運営している。
- ②多職種合同ケアーカンファレンスをオープンして毎月実施。特徴として、(1)参加自由それぞれの専門分野の英知の結集(2)ケーススタディ型でよくある症例を検討する。(3)生活モデルに基づく視点で検討。ディスカッション、議論でなく対話重視である。
- ③協同組合を核とした、ニーズと支援のマッチングを行う豊明市お互い様センター『ちゃっと』を実施。南医療生活協同組合とJAあいち尾東とコープ愛知が連携して、ちょっとした困りことを住民が手助けする。互助のコーディネートをする。(6名)サポーターは386名登録。作業の例としてゴミ出し、草取り、換気扇掃除など。(30分以内250円)
- ④民間サービスを活用
市外からの無料送迎バスを活用して、高齢者が毎日外出できる場所として市がアプローチして送迎バスのチラシ、販促用の割り引きチケットの共同制作。コープ

愛知と連携し、無料でその日のうちに配達するサービスの実施。公的保険外のサービスの領域を増やすかが大切。名古屋トヨペット豊明店では、毎日体操を実施。カラオケボックスを利用した体操教室、薬局での健康チェック、喫茶店にて見守りなどなど多くの民間の施設等を活用した事業を実施している。

- ⑤『チョイソコとよあけ』高齢者の交通不便を解消し、高齢者の外出促進に貢献。従来型のデマンド型交通とはことなり、民間企業が事業主体となり、エリアスポンサーによる協賛を得て実施している。

◇豊明市共生交流プラザ『カラット』

- ・廃校になった小学校跡地を活用して、子育て支援センター、児童発達支援センター、歴史民俗資料室、国際交流協会、とよあけ市民大学、おたがいさまセンター『チャット』で構成しており、子供から高齢者までの共生社会実現のための施設となっている。尾花沢市においてもいかに廃校を活用するかを学んだ。

《所感》

- ・民間を活用した事業（温泉施設の無料バス、自動車販売会社のスペースに手健康体操、カラオケボックスを利用した健康体操、薬局での健康チェックなどなど）の運営はすばらしいと思った。いかに、民間の知恵と力を活用することの大切さを学んだ。
- ・産学官（UR都市機構、藤田医科大学、市）がうまく連携し互いに医療、介護、そして共生社会に貢献していた。
- ・誰もが、普通に暮らせる幸せを実感できる街づくりを目指している。やはり、多様な方々が、全世代において、行政、社会福祉団体、区長会、市民団体、学校、民間企業がそれぞれの任務を果たすとともに、どこかでだれかとつながる社会に網を巡らせ、孤立化を防ぐ、地域包括支援を実施していることに、多くの示唆を得た。
- ・豊明市職員の常識にとらわれない、働きと行政運営に感服した。課員が毎日、机に座っていないで現場に赴いているとのこと。行政は、市民の力、民間の力をいかに引き出すかが大切であり、ともにまちづくりに参加してもらうかが重要だと思った。

日時 令和6年10月8日 13時30分から15時

場所 刈谷市総合文化センター

目的 刈谷市で行われている中高生の居場所づくり事業「なごみんはあと」を視察し、キッズクラブの取り組みについて調査・研究する。

市政との関連性 こども達が自由に集い、交流や学習ができる居場所づくり等を参考とする。



中高生の居場所『なごみんはあと』のある刈谷市総合文化センターは明るく開放的な雰囲気で視察した際もいろんな年代の方々が集っていた。定期的にお菓子作りや様々な企画があり、本市と違う所はこの居場所を使う際に申し込みが不要というところだと感じた。

不登校や引きこもりがちな方々にとって事前に申し込むことは簡単なことではなく、気軽に立ち寄ることができる場所となっていることがうかがえた。何かをするという目的を作る場所ではなく、自由に中高生や若い世代が集まることができて遊び学べる居場所作りという点で本市でも積極的に施設を開放していくべきと考える。令和9年開校の統合小学校の地域交流棟がぜひこのような雰囲気でも市民の方々が集える場になることを願う。